



## 「未来につながる学び」に向かって ～11.15 国語科研究発表会～

11月15日、小松市内から約90人の先生方をお迎えして、小松市教育員会指定の国語科研究発表会を行いました。苗代小は国語科の授業研究に取り組んで9年目。物語文の授業研究は2年目となります。国語科「読む」領域は主に「説明文」と「物語文」があり、説明文は人生を確かにするために、物語文は人生を豊かにするために読む、とも言われる学習です。

今回、公開授業を行ったのは、1年3組「くじらぐも」、4年3組「ごんきつね」、6年1組「やまなし」の3学級です。題名を聞いて「そういえば小学生の時、そんなお話の勉強をしたなあ」と懐かしく思い出される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ずっと受け継がれている名作には、受け継がれている理由があり、読み味わう意義のある物語文であると思います。

ただ、教材は同じでも、学び方が以前と随分違ってきています。一斉と個別、受信と発信、紙媒体とICT、協働的な学びと個別最適な学びなど、双方のベストバランスを図ることで、子どもたちが今後の人生に活かせるよりよい学び方の習得に向けて、試行錯誤を重ねながら取組を進めています。と同時に、何のために学ぶのか、どうして学校で学ぶのか、物語文を学ぶ意義とは、といった意義と目的を常に明確にすることも大切なことであると考えています。

11月15日は、たくさんの参加者に囲まれながら、自分の思いを自分の言葉で伝え、共に学び合う苗代っ子の姿が、あちらこちらで見られたことは本当に嬉しい事です。



今の子どもたちが大人になったころには、現在の仕事の何%しか残っていない（諸説あり）と言われる昨今、この子どもたちが大人になった時、どんな力と知識を使って生きていくのか。学校での学びが、彼らのよりよい未来につながる学びとなることを、常に忘れてはならないと思っています。

苗代小では、今後も教育の現場における「不易と流行」とは何か、学びのベストバランスを探りながら、「子どもたちの未来につながる学び」の実現を図っていきたいと考えています。



### 仲よくしよう会



苗代っ子 550人が21の縦割りグループに分かれて交流を図る仲よくしよう会も2回目。6年生の上手な司会と運営で、どのグループからも楽しみな笑い声が響いていました。6年生ありがとう！





# 国語科公開授業研究会 ～1の3・4の3・6の1～



1年3組  
くじらぐも



4年3組  
ごんぎつね



11月15日の国語科公開授業研究会で、1の3、4の3、6の1の皆さんが、学校の代表として授業を公開しました。自分たちから学びに向かう姿を、小松市内の先生方に見ていただくことができました。



6年1組  
やまなし

